

第3回一庫公園管理運営協議会 議事要旨

日時	令和7年2月26日(水) 13:30~15:30
場所	一庫公園 ネイチャーセンター会議室
内容	1. 開会 2. 出席委員数報告 3. 議題 (1) 一庫公園の管理運営について (2) 「県立都市公園のあり方検討」について (3) その他 4. 閉会
資料	1. 議事次第 2. 出席者名簿 3. 議題 (1) 一庫公園の管理運営について (2) 「県立都市公園のあり方検討」について
参加者	別添資料2「出席者名簿」のとおり

1 開会

事務局より、①傍聴希望者が1名であることの報告
 ②協議会資料及び議事録は公園HPにて公開されることの報告
 ③資料の確認 を行った。

2 出席委員数の報告

事務局より、出席委員数が10名であることの報告を行った。

3 議題【全体進行：服部会長】

(1) 一庫公園の管理運営について

事務局より別添資料「(1)一庫公園の管理運営について」、中野委員より別添資料(1)-2「一庫炭焼き体験塾」を用いて、説明を行った。

(2) 「県立都市公園のあり方検討」について

公園緑地課より別添資料1「第2回管理運営協議会における委員意見に対する対応」を用いて説明を行った。

特に質問等なし。

公園緑地課より別添資料2-1「検討に当たっての基本的な考え方【自然環境保全】(案)」、2-2「ゾーニング図A(案)」、2-3「ゾーニング図B(案)」を用いて説明を行った。

(山瀬委員) 資料2-1のP.3の減災機能の修正について特に問題ないと思われる。またP.6の自然環

境保全エリアにおける防災機能維持についても、基本的にはこの表記で問題ないと思われる。1点だけ指摘するが、「災害等により」と記載があるが、具体的に記載しても良いのではないか。園路及び道路境界の幅について倒木時を想定したものであるため、「倒木等により」と記載した方が良いと思う。

(服部会長) 20m以上の高木についてはどう取り扱うのか。倒木時に被害を及ぼすような危険木については20mにこだわらなくても良いと考える。

(山瀬委員) あくまでもこの部分の考え方というのは、倒木時に道路に倒れこむことが問題であるため、20m以上の高木についても同様の取り扱いである。

なお、伐採によって倒木の危険性は回避できると思うが、伐採した部分が萌芽再生せず崩壊してしまうと別の表層崩壊等を引き起こす可能性がある。その辺りは十分注意していただきたい。

(服部会長) 補植が必要だという話か。

(山瀬委員) 場合によっては補植も必要かと思われるが、その前にシカ対策が必要である。

根の緊縛力が弱ると表層崩壊が起きやすくなるが、その崩壊が起りやすい場所というのは水が集まる場所である。したがって谷筋等の水が集まりやすい場所は重点的に伐採後の樹木を再生させるといった、きめ細やかな管理も必要かと思われる。

(服部会長) シカ対策が重要といった話もあったが、予算的な裏付けはあるのか。

南但馬自然学校において、シカ対策の費用を教育委員会にお願いしたが難しく、県有地では国からの補助を受けることもできず、手つかずの状態である。当公園も県有地のため、シカ対策のための予算を県で組む必要がある。

(公園緑地課) 今すぐ前向きな回答をすることは難しいが、シカに関する課題は認識しているため、予算確保に向け取り組む必要があると考えている。

(山瀬委員) 当公園はシカによる被害が発生しており、他地域での経験上、シカ対策を早期に実施しなければトータルコストがかさむと考えられる。

(事務局) シカ対策として箱罟の設置を検討しているが、傾斜があり難しい。当公園の立地環境を踏まえるとくくり罟が一番良いと思うが、公園利用者の安全との両立が課題である。

(服部会長) 他の県立都市公園の中でシカの被害は当公園が一番か。

(公園緑地課) 他の県立都市公園ではあまり聞かない。

(佐々木委員) シカ自体を増やさないことが重要である。またシカが嫌うような匂いを発する植物を植える等も対策の1つかと思う。

公園緑地課より別添資料3-1「検討に当たっての基本的な考え方【活性化】(案)」、3-2「県立都市公園活性化への取組リスト(案)」を用いて説明を行った。

(山瀬委員) 資料3-1のP.3の一庫公園における課題において、「新規ボランティア団体立ち上げへのサポート体制や選定基準の不足」と記載があるが、現状を教えてください。

(中野委員) ボランティアメンバーの高齢化により、体会せざるを得ない状況がある。我々の後継ぎというよりも新たなフィールドとして公園を利用する団体が出てきても良いのではと思う。

(事務局) 過年度は、第1日曜日は里山塾、第2日曜日はひとくらクラブ、第3日曜日はひとくら森

のクラブ、第4日曜日は青空クラブというように、どの日曜日も団体がワークショップルームを使っているような状況であった。現在ひとくらクラブと青空クラブが高齢化等により休会したため、第2、4日曜日においては空いている状態である。ただ最近の日曜日は駐車場が非常に混み合うため、土曜日の午前中に親子向けの活動を開始することを検討中である。

- (中野委員) 日曜日だけでなく平日の活動実施や、学生の長期休暇に合わせた活動にすれば、様々な年齢層の参加が見込めるのではないか。
- (事務局) 資料3-1に当公園で取り組んでいる活動の記載があるが、授業の一環や体験学習として多くの学生に来ていただいております、将来ここで活動するきっかけになればと考えている。また北摂里山大学の方が、活動の後継者へとつながれば良いとも考えている。ただ、選定基準を設けて新しい団体に入ってもらえるとまた別の課題があると感じている。
- (服部会長) 全県的な自然環境の管理に係る課題への考え方というのではないのか。
- (公園緑地課) あり方検討会の提言では、各公園の特性を踏まえ、差異が生じることを積極的に許容するという方向性である。そのため、全県的な方針を示すというより、各公園の特性に応じた取り組みを進めていくことを考えている。
- (服部会長) 尼崎の森中央緑地では、10年程度で樹木を伐採しており、その伐採木の利用について問題となっている部分もある。そういった問題は他の公園でも出てくることが予想されるため、全県的な方向性が示されても良いのではないかと思う。そういった意味で、一庫公園は伐採木の利用のモデルになり得るのではないか。
- (事務局) 資料3-1のP. 6の一庫公園における課題の1つである、樹木伐採後の変化について、しっかり保全していくことの重要性を感じている。落石や倒木による事故等への危険性がある当公園では、シカ対策だけでなく、そういった災害への対策も求められており、今後引き続き協議を実施したいと考えている。
- (服部会長) 当公園の辺りにはシカがどれぐらいいるのか。
- (事務局) おおよそ30頭程度である。
- (服部会長) 有馬富士公園ではシカが侵入しており、常緑樹の再生を阻んでいる。こういった事例は今後他の公園でも増加すると考えられる。
- (山瀬委員) 公園管理の根底部分は来園者の安全である。次の段階として、例えば園内の斜面を把握しそれに応じた整備方針を策定する等、よりきめ細かい公園管理の実施について検討していく必要がある。
- 樹木による防災・減災というのは限界があるため、樹木管理の目的が日常的な利用に関するものか非日常的の災害等に対するものかを区別する必要があると考える。
- (服部会長) 当公園のような急傾斜の県立都市公園は他にないのか。
- (公園緑地課) 少ないと思われる。
- (山瀬委員) 資料3-2の播磨中央公園の紹介において、豊富な資源との記載があるが具体的にどのようなものを指しているのか。当公園と共通する部分があるのか確認したい。
- (公園緑地課) 公園施設や森林資源を含めて、豊富な資源といっていると思われる。
- (山瀬委員) 他の県立都市公園の取組等も情報共有できればと思い発言した。

資料3-1のP.6に前回私が発言した循環利用の記載があり、資料2-3の橙で塗られている部分をそういった利用に対応させているかと思うが、少し整理が必要である。資料2-3について、当公園の地図上のクヌギ萌芽再生林とも整合性を持たせる必要があると思う。活性化の考え方と実際の循環利用、資料2-3の図面がそのように合致しているのかについて説明すれば、文言だけでなく図としても一庫公園の魅力を示すことができると考える。

(公園緑地課) 管理事務所にも相談しながら調整する。

(服部会長) 活性化に係る課題を今後さらに協議していくためにも、今回こういった検討をしていただいてよかった。来年度以降も今回の協議を踏まえ進めていきたい。

(3) その他

事務局より閉会への挨拶を行った。

4 閉会